

ニューヨーク州ホスピタリティ産業のユニフォームに関するガイダンス

ホスピタリティ産業では、雇用主は着用必須のユニフォームを購入するか、従業員に補償しなければなりません。さらに、雇用主は着用必須のユニフォームの維持費を負担する責任もあります。ニューヨーク州労働局は、労働法のこれらの規定を執行する責任を負っており、コンプライアンスの遵守を支援し、ユニフォームのメンテナンスにかかる費用を回避するために、以下のガイダンスを提供しています。

ユニフォームのメンテナンス代を回避すること：ユニフォームの購入費とメンテナンス費用には、加算があり得ます。雇用主は、以下のいずれかを実施して、ユニフォームの購入費とメンテナンス費用を回避することができます。

- ユニフォームの着用を必須とするのではなく、ドレスコードを定めます。従業員に特定の色かスタイルの私服を着ることを許可します。ドレスコード（有名ブランド、購入する具体的な小売店、服装の詳細など）については、あまり具体的にすぎると、購入責任が生じたり、従業員にクリーニング代を支払わなければならないようになります。

着用必須のユニフォームとは、何ですか？着用必須のユニフォームとは、雇用主が仕事に従業員に着用を義務付ける衣服のことです。これには、連邦、州、市、または地域の法律、規則、規制を遵守するために、着用しなければならない衣服が含まれます。雇用主のビジネスロゴが入った服か、その他のビジネス広告が入った服は、着用必須のユニフォームとなります。雇用主はこれを購入し、この種の着用必須のユニフォームのクリーニング代を従業員に支払わなければなりません。

着用必須のユニフォームではないものは、何ですか？従業員が仕事でないときに着ることができ、通常の基本的な街着は、着用必須のユニフォームではありません。例えば、黒のパンツ、白のドレスシャツ、黒のポロシャツなどです。雇用主は、普段着を維持するために、購入したり、従業員に支払ったりする必要はありません。

- 従業員が普段着かドレスコードと一緒に付ける名札かエプロンを準備します。名札かエプロンを職場で保管し、自分でクリーニングします。
- 「ウォッシュ&ウェア」である着用必須のユニフォームを購入し、提供します。これは、従業員が普段着と一緒に簡単に洗濯でき、ドライクリーニングやアイロンがけなどをせずに、着て働けるユニフォームのことです。例えば、ロゴ入りのシャツは、「ウォッシュ&ウェア」とすることができます。各従業員には、その従業員の週当たりの平均勤務日数に見合うように、十分な数のユニフォームを提供します。
- 従業員のユニフォームは従業員が自分で洗濯します。従業員に洗濯義務を担当させるか、クリーニングサービスにユニフォームの洗濯を依頼します。従業員には勤務中に着替えをさせ、退社前に着用したユニフォームを返却させます。従業員が雇用主の提供するサービスを利用せずに、自分でユニフォームを洗濯することを選択する場合、クリーニングサービスが無料で機能的であって、合理的な頻度である限り、ユニフォームのメンテナンス代を支払う必要はありません。例えば、ポスターで掲示するか、従業員ハンドブックに載せて、必ず書面でクリーニングサービスを提供することを従業員に通知してください。

従業員の着用必須のユニフォームを維持しないことを選択した場合は、通常の賃金に加えて、従業員が着用必須のユニフォームを自分でクリーニングするための費用を毎週一定額支払う責任が生じます。支払う必要のある金額は、従業員が週に何時間働くかによって異なります（以下を参照）。無料の食事が宿泊によって、ユニフォームのメンテナンス費用を相殺することはできません。

	低 (週20時間未満)	中 (週20時間以上30時間未満)	高 (週30時間以上)
2025年1月1日～2025年12月31日			
NYC	\$9.80	\$16.25	\$20.50
Long Island および Westchester	\$9.80	\$16.25	\$20.50
New York の残部	\$9.25	\$15.30	\$19.25